

技術と 叡智。

ぎじゆつ
えいち

170年、受け継がれてきたもの。

磨き続けてきたもの。

私たちの中心にあるもの。

アイ エイチ アイ
IHI



**ROTTERDAM
PHILHARMONIC
ORCHESTRA**

Lahav Shani, Chief Conductor
Japan Tour 2025

ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団
首席指揮者: ラハフ・シャニ

2025年 日本公演

ラハフ・シャニ 指揮 ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団

2025年 日本公演

Rotterdam Philharmonic Orchestra

Lahav Shani, Chief Conductor

Japan Tour 2025

6.23 日19:00 川崎 ミューザ川崎シンフォニーホール

June 23 Mon. 19:00 Kawasaki MUZA Kawasaki Symphony Hall

ワーヘナール: 序曲「シラノ・ド・ベルジュラック」 Op.23

J. Wagenaar: Cyrano de Bergerac Overture, Op.23

プロコフィエフ: ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 Op.26 (ピアノ: ブルース・リウ)

S. Prokofiev: Piano Concerto No.3 in C major, Op.26

- 第1楽章: アンダンテ — アレグロ
- 第2楽章: アンダンティーノ
- 第3楽章: アレグロ・マ・ノン・トロツポ

- 1st Mov.: Andante — Allegro
- 2nd Mov.: Andantino
- 3rd Mov.: Allegro ma non troppo

ブラームス: 交響曲第4番 ホ短調 Op.98

J. Brahms: Symphony No.4 in E minor, Op.98

- 第1楽章: アレグロ・ノン・トロツポ
- 第2楽章: アンダンテ・モデラート
- 第3楽章: アレグロ・ジョコソ
- 第4楽章: アレグロ・エネルジーコ・エ・パッシオナート

- 1st Mov.: Allegro non troppo
- 2nd Mov.: Andante moderato
- 3rd Mov.: Allegro giocoso
- 4th Mov.: Allegro energico e passionato

6.26 日19:00 東京 サントリーホール

June 26 Thu. 19:00 Tokyo Suntory Hall

ワーヘナール: 序曲「シラノ・ド・ベルジュラック」 Op.23

J. Wagenaar: Cyrano de Bergerac Overture, Op.23

プロコフィエフ: ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 Op.26 (ピアノ: ブルース・リウ)

S. Prokofiev: Piano Concerto No.3 in C major, Op.26

- 第1楽章: アンダンテ — アレグロ
- 第2楽章: アンダンティーノ
- 第3楽章: アレグロ・マ・ノン・トロツポ

- 1st Mov.: Andante — Allegro
- 2nd Mov.: Andantino
- 3rd Mov.: Allegro ma non troppo

ドヴォルザーク: 交響曲第9番 ホ短調 Op.95「新世界より」

A. Dvořák: Symphony No.9 in E minor, Op.95 "From the New World"

- 第1楽章: アダージョ — アレグロ・モルト
- 第2楽章: ラルゴ
- 第3楽章: スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ
- 第4楽章: アレグロ・コン・フオーコ

- 1st Mov.: Adagio — Allegro molto
- 2nd Mov.: Largo
- 3rd Mov.: Scherzo. Molto vivace
- 4th Mov.: Allegro con fuoco

6.27 日19:00 東京 サントリーホール

June 27 Fri. 19:00 Tokyo Suntory Hall

モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492

W. A. Mozart: Overture to "Le Nozze di Figaro" K.492

ベートーヴェン: ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61 (ヴァイオリン: 庄司紗矢香)

L. v. Beethoven: Violin Concerto in D major, Op.61

(Violin: Sayaka Shoji)

- 第1楽章: アレグロ・マ・ノン・トロツポ
- 第2楽章: ラルゲット
- 第3楽章: ロンド、アレグロ

- 1st Mov.: Allegro ma non troppo
- 2nd Mov.: Larghetto
- 3rd Mov.: Rondo. Allegro

ブラームス: 交響曲第4番 ホ短調 Op.98

J. Brahms: Symphony No.4 in E minor, Op.98

- 第1楽章: アレグロ・ノン・トロツポ
- 第2楽章: アンダンテ・モデラート
- 第3楽章: アレグロ・ジョコソ
- 第4楽章: アレグロ・エネルジーコ・エ・パッシオナート

- 1st Mov.: Allegro non troppo
- 2nd Mov.: Andante moderato
- 3rd Mov.: Allegro giocoso
- 4th Mov.: Allegro energico e passionato

6.28 日14:00 横浜 横浜みなとみらいホール

June 28 Sat. 14:00 Yokohama Yokohama Minato Mirai Hall

モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492

W. A. Mozart: Overture to "Le Nozze di Figaro" K.492

ベートーヴェン: ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61 (ヴァイオリン: 庄司紗矢香)

L. v. Beethoven: Violin Concerto in D major, Op.61

(Violin: Sayaka Shoji)

- 第1楽章: アレグロ・マ・ノン・トロツポ
- 第2楽章: ラルゲット
- 第3楽章: ロンド、アレグロ

- 1st Mov.: Allegro ma non troppo
- 2nd Mov.: Larghetto
- 3rd Mov.: Rondo. Allegro

ドヴォルザーク: 交響曲第9番 ホ短調 Op.95「新世界より」

A. Dvořák: Symphony No.9 in E minor, Op.95 "From the New World"

- 第1楽章: アダージョ — アレグロ・モルト
- 第2楽章: ラルゴ
- 第3楽章: スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ
- 第4楽章: アレグロ・コン・フオーコ

- 1st Mov.: Adagio — Allegro molto
- 2nd Mov.: Largo
- 3rd Mov.: Scherzo. Molto vivace
- 4th Mov.: Allegro con fuoco

主催: ジャパン・アーツ 協賛: IHI 後援: オランダ王国大使館 協力: 横浜みなとみらいホール(横浜公演)

ラハフ・シャニ指揮 ロッテルダム・フィル ハーモニー管弦楽団 2025日本公演	6月21日(土)大 阪	ザ・シンフォニーホール 主催: ABCテレビ ◆
	6月22日(日)名古屋	愛知県芸術劇場コンサートホール 主催: CBCテレビ ★
	6月23日(月)川 崎	ミューザ川崎シンフォニーホール 主催: ジャパン・アーツ ◆
	6月25日(水)福 井	福井県立音楽堂 ハーモニーホール福井 主催: (公財)福井県文化振興事業団/福井テレビ ◆
	6月26日(木)東 京	サントリーホール 主催: ジャパン・アーツ ◆
	6月27日(金)東 京	サントリーホール 主催: ジャパン・アーツ ★
	6月28日(土)横 浜	横浜みなとみらいホール 主催: ジャパン・アーツ ★
	6月29日(日)所 沢	所沢ミューズ アークホール 主催: (公財)所沢市文化振興事業団 ◆
	◆ブルース・リウ	★庄司紗矢香



©Marco Borggreve

ラハフ・シャニ

(首席指揮者)

Lahav Shani, Chief Conductor



Lahav Shani

ラハフ・シャニは2018年9月にヤニック・ネゼ＝セガンよりバトンを引き継ぎ、楽団史上最年少でロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任した。

2021年シーズンから、シャニはズービン・メータよりイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督の任を引き継いだ。深い信頼関係と実りのある成果を上げ、任期は2031/32シーズンまで延長されている。また2026/27シーズンより、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任することが発表された。2024年にはルツェルン音楽祭で同楽団を指揮し、絶賛を博す。

近年及び今後の主な活動としては、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ドレスデン・シュターツカペレ、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、ブダペスト祝祭管弦楽団、ボストン交響楽団、ベルリン放送交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、バリ管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団、バンベルク交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団との共演などがある。

シャニは、1989年テルアビブに生まれ、ハンナ・シャルギのもと6歳でピアノを始め、ブッフマン・メータ音楽学校でアリエ・ヴァルディのもと研鑽を積んだ。その後、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でクリスチャン・エーヴァルト、ピアノをファビオ・ピディニに師事した。また学生時代にはダニエル・バレンボイムからも薫陶を受けた。2013年、バンベルクのグスタフ・マーラー指揮者コンクールで優勝し、2016年6月には、指揮者、そしてソロ・ピアニストとしてロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団にデビュー。そのわずか2か月後に、2018年からの首席指揮者就任が発表された。

ピアニストとしては、2018年7月にベルリンのブーレーズ・ザールにてソロ・リサイタル・デビューを果たした。フィルハーモニア管弦楽団、ベルリン・シュターツカペレ、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団など、多数のオーケストラでピアノ協奏曲を弾き振りしているほか、室内楽やリサイタルの演奏経験も豊富で、エクサン・プロヴァンス音楽祭、ケルン・フィルハーモニー、ヴェルビエ音楽祭などにも出演。2019年にはワーナーより、ルノー・カピュソンとキアン・ソルター二との共演によるチャイコフスキーとドヴォルザークのピアノ三重奏曲のCDが発売されている。



©Guido Piper

ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団

Rotterdam Philharmonic Orchestra

ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団は、極めてエネルギッシュな演奏、高い評価を得ているレコーディング、そして革新的な聴衆へのアプローチで卓越した存在感を放っている。同楽団は、1918年に創立され、ヨーロッパで最も重要なオーケストラのひとつとしての地位を確立している。

ロッテルダム・フィルは、草創期を経て、1930年から首席指揮者を務めたエドゥアルド・フリプセのもと、オランダで最も重要なオーケストラのひとつに成長した。1970年代には、ジャン・フルネとエド・デ・ワールトのもと、国際的な評価を獲得。さらにフレリー・ゲルギエフの就任は新しい時代を花開かせ、2018年以降はヤニック・ネゼ＝セガンからラハフ・シャニへと引き継がれている。

デ・ドゥーレン・コンサート・ホールを本拠地としながら、それ以外の場所、地元の会場から国内外の著名なホールなどでも頻繁に演奏している。2010年以来、パリのシャンゼリゼ劇場のレジデント・オーケストラとしても活躍。また、世界各地の会場やコンサート・ホールで教育のための演奏や地域のコミュニティ・プロジェクトなども行っており、年間15万から20万人の聴衆に音楽を届けており、その中にはかなりの数の若い世代も含まれている。

1950年代のエドゥアルド・フリプセとの画期的なマーラーの録音以来、数多くのレコーディングを行い、高い評価を獲得している。現在、ドイツ・グラモフォン及びBISレコーズと契約。近年はEMI(現ワーナー)とヴァージン・クラシックス(現エラート)でも録音している。また、オーケストラの歴史的録音を再発売するために自主レーベル「ロッテルダム・フィルハーモニック・ヴィンテージ・レコーディングス」を設立。コンサートのライブ配信はオンライン・プラットフォームのMedici.tvで視聴することができる。また新型コロナウイルスの発生時には、デジタル・コンテンツで聴衆に音楽を届けた。最も注目されたのは、300万回視聴されたベートーヴェンの「歓喜の歌」のステイ・アット・ホーム公演で、世界的なニュースとなった。

Rotterdam Philharmonic Orchestra





©Christoph Köstlin

ブルース・リウ (ピアノ)

Bruce Liu, *Piano*

2021年ワルシャワで開催された第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで優勝したブルース・リウは、「息をのむような美しさ」(BBCミュージック・マガジン)と賞賛され、新世代で最もエキサイティングな才能を持つピアニストの一人との評価を確立した。

2024年ラインガウ音楽祭のフォーカス・アーティストとして、リサイタル、室内楽、及びフランクフルト放送響、ドイツ・カンマーフィル、チューリッヒ・トーンハレ管との共演と全5公演に出演。2024/25シーズンは、グスターボ・ヒメノ指揮ルクセンブルク・フィル、アントニオ・パッパーノ指揮ロンドン響、アラン・アルティノグル指揮フランクフルト放送響、マリー・ジャコ指揮ウィーン響、クリスティアン・マチュラル指揮フランス国立管、ラハフ・シャニ指揮ロッテルダム・フィルや、アカデミー室内管、アムステルダム・シンフォニエッタ、ボストン響、デンマーク国立響、ケルン放送響、シンシナティ響、ヒューストン響、ミネソタ管、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、ロイヤル・フィルと共演。

これまでには、ロサンゼルス・フィル、サンフランシスコ響、フィラデルフィア管、モントリオール響、フィルハーモニア管、NHK響などの主要オーケストラと、ライアン・バンクロフト、チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィ、ファビオ・ルイーダ、ヨアナ・マルヴィッツ、サントゥ＝マティアス・ロウヴァリ、ヤニック・ネゼ＝セガン、ジャンドレ・ノセダ、ラファエル・パヤレ、ワシリー・ペトレンコ、ダリア・スタセフスカなど著名な指揮者のもとで共演した。2025年9月、ウラディーミル・ユロフスキ指揮バイエルン国立管弦楽団とともに来日予定。

リサイタルでは、2024/25シーズンにカーネギーホール、シャンゼリゼ劇場、アムステルダム・コンセルトヘボウやアジアの主要ホールで再演するほか、ウィーン楽友協会、ミュンヘン・プリンツレーゲンテン劇場にデビュー。このほか、ルール・ピアノ音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、アスペン音楽祭、タングルウッド音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ・フェスティバル、エディンバラ国際音楽祭、グシュタード・メニューイン音楽祭などに出演している。

ドイツ・グラモフォンの専属レコーディング・アーティストでもあり、デビュー・アルバム「Waves」はオーパス・クラシックの「Young Talent Of the Year」賞(2024年)を受賞。ショパン国際ピアノ・コンクールの入賞演奏を収録したファースト・アルバムは、グラモフォンの「2021年ベスト・クラシック・アルバム」をはじめ、数々の国際的評価を得た。

リチャード・レイモンドとダン・タイ・ソンに師事。中国人の両親のもとにパリで生まれ、モントリオールで育った。驚異的な芸術性は、ヨーロッパの洗練、北米のダイナミズム、そして中国文化の長い伝統といった多文化の遺産によって形作られてきた。



©Laura Stevens

庄司 紗矢香 (ヴァイオリン)

Sayaka Shoji, *Violin*

唯一無二の芸術的多様性とレパートリーへの緻密なアプローチで、国際的に認められるヴァイオリニスト。

その音楽的言語に対する非凡な洞察力は、これまで拠点を持ってきたヨーロッパと日本、二つの背景の混合に由来する。

東京に生まれ、3歳でイタリアのシエナに移住。キジアーナ音楽院とケルン音楽大学で学び、14歳でルツェルン音楽祭にて、ルドルフ・バウムガルトナー指揮ルツェルン祝祭管弦楽団との共演でヨーロッパ・デビュー、及びウィーン楽友協会に出演した。

1999年、パガニーニ国際コンクールにて史上最年少優勝。以来、ズービン・メータ、ロリン・マゼール、セミヨン・ビシュコフ、マリス・ヤンソンス、ユーリ・テミルカーノフなど多数の一流指揮者と共演を重ねた。これまでに共演したオーケストラは、フィルハーモニア管、クリーヴランド管、ロンドン響、ベルリン・フィル、ロサンゼルス・フィル、ニューヨーク・フィル、チェコ・フィル、マリインスキー管など多数。

2024/25シーズンのハイライトには、エサ＝ベッカ・サロネン指揮サンフランシスコ響、カーチュン・ウォン指揮クリーヴランド管、ヤープ・ファン・ズヴェーデン指揮エバークリーン響や、トンクンストラ管、シュトゥットガルト室内管とのコンサートが挙げられる。2024年秋にはアラン・アルティノグル指揮フランクフルト放送響の日本ツアーに参加。その名演が評価され、第37回ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞した。

室内楽でも、スティーヴン・イッサーリス、ヴィンセント・オラフソンなど多くの演奏家と共演しており、フィルハーモニー・ド・パリ、ウィグモアホール、サントリーホールなどで定期的にリサイタルを行っている。

また多様な芸術分野とのコラボレーションでも世界的に高く評価されており、舞踊家・振付家の勅使河原三郎とのフィルハーモニー・ド・パリでの共演のほか、安藤忠雄、杉本博司らとも積極的にコラボレーションを行っている。2007年創作の視覚音楽プロジェクト「Synesthesia」は、グループ展覧会「Au-delà de mes rêves」(2014)で、草間彌生等の著名な芸術家たちと並んで選ばれた。

これまでドイツ・グラモフォンから、テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルグ・フィルとの録音を含む11枚のアルバムをリリース。

2012年、日経ビジネス「次世代を創る100人」に選出。2016年、芸術分野で顕著な影響を及ぼした者に与えられる「毎日芸術賞」を受賞。使用楽器は上野製菓株式会社より貸与されているストラディヴァリウス「レカミエ」1729年製。



Bruce Liu



Sayaka Shoji

Program Notes

曲目解説

柴田 克彦(音楽評論家) Katsuhiko Shibata

ワーヘナール:序曲「シラノ・ド・ベルジュラック」Op.23

ヨハン・ワーヘナール(1862－1941)は、ドビュッシーと同年に生まれたオランダの近代作曲家。母校ユトレヒト音楽院で教鞭をとり、同校等の院長を務めたほか、オルガニストや合唱指揮者としても活躍した。作曲家としては、ワーグナーの影響を受けたオペラや交響詩等、後期ロマン派風の作品を数多く残した。

1905年作のこの曲は、フランスの作家エドモン・ロスタンの同名戯曲(1897年初演)に靈感を受けて書かれた管弦楽曲。醜い容姿を持ちながら、哲学者、理学者、詩人、軍人等、多様な才能を発揮した奇人シラノのキャラクターが、7つの主題を用いて表現される。濃厚なロマンに溢れた音楽は、R.シュトラウスの交響詩「ドン・ファン」を彷彿させる。

モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492

ウィーン古典派の天才ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756－91)が残した名オペラの序曲。オペラ自体は、円熟期の1786年に完成され、ウィーンで初演後、チェコのプラハで大ブレークを果たした。本編はスペインのセビリアが舞台。伯爵の従僕フィガロと小間使いスザンナが結婚する日に巻き起こる様々な出来事が生き生きと描かれる。

序曲は慌ただしい本編の雰囲気凝縮した急速で軽快な佳品。ざわめくような主題と明るくなめらかな主題が対照されながら進み、ほぼ全体が反復される。

プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番 ハ長調 Op.26

旧ソ連の代表格の一人、セルゲイ・プロコフィエフ(1891－1953)が残した5つのピアノ協奏曲及び20世紀の同分野を代表する1曲。創作の発端はペテルブルグ音楽院在学中の1913年に遡る。だがその後の進捗は遅く、1918年にロシア革命の混乱を避けてアメリカへ亡命後、自らのレパートリーの充実を図って本格的に着手。ピアニストとして欧米を往復する中、1921年にフランスで完成され、同年シカゴで自身のピアノにより初演された。ところがアメリカでの反響は乏しく、パリをはじめとするヨーロッパ各地での演奏で評価を高めていった。

当時のプロコフィエフは前衛色の濃いモダンな作風を指向していたが、本作は新古典主義に沿った明快な音楽となっている。ソナタ形式→変奏曲→ロンド形式と続く古典的な3楽章構成も彼のピアノ協奏曲では唯一の例。その中で、作曲者ならではのダイナミックな躍動感、清新なリリズム、ロシア風の素朴な旋律美、モダンな感覚等を併せ持った音楽が展開される。

第1楽章:アンダンテ アレグロ。クラリネットが歌う序奏の主題で始まり、すぐにテンポを速めて、細かく烈しい第1主題と若干ユーモラスな第2主題や穏やかな楽想が登場。精力的な展開を遂げる。

第2楽章:アンダンティーノ。主題と5つの変奏とコーダ。ひなびた主題に変化に富んだ変奏が続く。

第3楽章:アレグロ・マ・ノン・トロppo。「越後獅子」に似ていることで知られる主要主題の部分に、エネルギッシュな部分や物寂しい部分が挟まれる。

ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.61

ウィーン古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770－1827)が完成した唯一のヴァイオリン協奏曲にして、同分野の代表作のひとつ。

創作中期の1806年、アン・デア・ウィーン劇場のコンサートマスター、フランツ・クレメントのために、約5週間というベートーヴェンとしては異例の速さで作曲され、同年初演された。

曲は、気品に充ち、晴れやかで牧歌的。協奏曲には珍しく独奏ヴァイオリンの技巧的な名技が前面に出されておらず(とはいえ技術的にも容易ではない)、“歌う”楽器としての魅力が壮大な規模で追求されている。その背景には、名人芸を優先した協奏曲への批判、恋愛真っ盛りだった当時の心境、初演者クレメントの柔和な持ち味等があるとされている。

なお第1楽章のカデンツァは残されていないため、ヨアヒム、アウアー、クライスラー作や奏者独自のものが演奏される。

第1楽章:アレグロ・マ・ノン・トロppo。冒頭に刻まれるティンパニの4音が楽章全体を支配する。これは同楽器の画期的な使用例だ。曲は4連音に続く穏やかな主題と上昇下降する主題を中心に進行。伸びやかな音楽が連綿と展開される。

第2楽章:ラルゲット。甘美で安らぎに満ちた、自由な変奏形式による緩徐楽章。切れ目なく第3楽章へ。

第3楽章:ロンド、アレグロ。明るく華やかな終曲。躍動的な主要主題に2つの副主題が挟まれる。

ブラームス:交響曲第4番 ホ短調 Op.98

ドイツ・ロマン派の巨匠ヨハネス・ブラームス(1833－97)が残した最後の交響曲。主にウィーン南西の避暑地ミュルツツシューラークで作曲され、1885年に完成。同年マイニンゲンで行われた初演は、第1、第3楽章がアンコールされるなど大好評を博した。

本作は、20世紀近い時期に書かれながら、編成は古典派同様で、形は伝統的な4楽章構成。それでいて、憂愁や諦観を湛えた“枯淡のロマン”というべき曲想と悠々たる運びが、ブラームスの(特に後期の)個性を如実に示している。同時に見逃せないのが、第2楽章で中世の教会旋法である「フリギア旋法」、第4楽章でバロック時代の「パッサカリヤ」という古い様式が採用されている点。パッサカリヤは1つの旋律を主に低音部で繰り返しながら展開される一種の変奏曲で、ここで

はバッハのカンタータBWV150の主題をもとに多彩な変奏が展開される。これらは一見時代錯誤だが、「古い形で新たな音楽を生み出す」挑戦的な試みとみられている。

第1楽章:アレグロ・ノン・トロppo。溜息のような第1主題と朗々と歌われる第2主題を中心に、枯淡の情感と重厚さを併せ持った音楽が展開される。

第2楽章:アンダンテ・モデラート。2本のホルンから発展する第1主題は前記の「フリギア旋法」に拠るもの。チェロが出す第2主題が加わり、侘しさを湛えた歌が流れてゆく。

第3楽章:アレグロ・ジョコソ。本作唯一の明るく力強い楽章。同楽章のみピッコロとトライアングル(ブラームスの全交響曲で唯一の使用例)が加わる。

第4楽章:アレグロ・エネルジーコ・エ・パッシオナート。上行音階風の主題と30の変奏、及び第31変奏を兼ねたコーダから成るパッサカリア。同楽章のみトロンボーンが加わる。

ドヴォルザーク:交響曲第9番 ホ短調 Op.95「新世界より」

チェコ国民楽派の大家アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)が残した最後の交響曲。1892年9月、既に国際的な名声を得ていたドヴォルザークは、ニューヨーク・ナショナル音楽院の創立者ジャネット・サーバーからの誘いに応じて渡米し、1895年4月まで同音楽院の院長を務めた。そして滞在中に黒人霊歌や先住民の音楽を知り、これらの要素と故郷チェコのボヘミア色を融合させた複数の名作—弦楽四重奏曲「アメリカ」、チェロ協奏曲等—を残した。その第1作が1893年1~5月に作曲されたこの曲。同年ニューヨークで初演され、大成功を収めた。

本作は、ボヘミアの音楽と同じ五音音階(ド-レ-ミ-ソ-ラの音階)を用いた現地音楽への共感、新世界アメリカ、中でもエネルギーに満ちたニューヨークの印象、母国への郷愁等が融合した音楽、すなわち「新世界“より”」発信された“アメリカ便り”ともいえる作品だ。

曲は名旋律の宝庫。中でも第2楽章のメイン主題は、後に歌詞が付けられ、「家路」等の名で普及した。第1楽章序奏部の上下する動機が全楽章に登場することで全曲の統一が図られているのも大きな特徴。またシンコペーションの多用が際立っており、第4楽章の一打のみ(しかも弱音)というシンバルの用法も斬新だ。なお第2、3楽章は、アメリカ先住民の英雄を扱った詩「ハイアワサの歌」から靈感を得たといわれている。

第1楽章:アダージョーアレグロ・モルト。静々と始まる遅い序奏に続いて、序奏の動機に基づく第1主題、哀感を帯びた第2主題を中心に、劇的な進行を遂げる。

第2楽章:ラルゴ。郷愁に満ちた長調の緩徐楽章。イングリッシュ・ホルンが奏する有名な主題を中心とした主部に、美しくも切ない中間部が挟まれる。

第3楽章:スケルツォ、モルト・ヴィヴァーチェ。舞曲風の楽章。歯切れの良い主部に、軽く弾んだ中間部が挟まれる。

第4楽章:アレグロ・コン・フォーコ。雄渾な終曲。行進曲調の第1主題を中心に進行し、優しい第2主題のほか、第1~3楽章の主題も顔を出す。力強く進み、管楽器の伸ばした音が弱まる異例の終結を迎える。

ROTTERDAM PHILHARMONIC ORCHESTRA

Chief Conductor

Lahav Shani

Honorary Conductor

Yannick Nézet-Séguin

Regular Guest Conductor

Tarmo Peltokoski

First Violin

Marieke Blankestijn, *Concert Master*

Tjeerd Top, *Concert Master*

Quirine Scheffers

Hed Yaron Mayersohn

Saskia Otto

Arno Bons

Rachel Browne

Maria Dingjan

Marie-Jose Schrijner

Noemi Bodden

Petra Visser

Sophia Torrenga

Hadewijch Hoffland

Annerien Stuker

Alexandra van Beveren

Marie Duquesnoy

Giulio Greci

Second Violin

Charlotte Potgieter

Vacancy

Frank de Groot

Laurens van Vliet

Elina Hirvilammi-Staphorsius

Jun Yi Dou

Bob Bruyn

Eefje Habraken

Maija Reinikainen

Wim Ruitenbeek

Babette van den Berg

Melanie Broers

Sarah Décamps

Tobias Staub

Viola

Anne Huser

Roman Spitzer

Galahad Samson

José Moura Nunes

Kerstin Bonk

Janine Baller

Francis Saunders

Veronika Lenártová

Rosalinde Kluck

Léon van den Berg

Olffe van der Klein

Jan Navarro

Cello

Emanuele Silvestri

Vacancy

Joanna Pachucka

Daniel Petrovitsch

Mario Rio

Eelco Beinema

Carla Schrijner

Pepijn Meeuws

Yi-Ting Fang

Killian White

Double Bass

Matthew Midgley

Ying Lai Green

Jonathan Focquaert

Arjen Leendertz

Ricardo Neto

Javier Clemén Martínez

Vacancy

Flute

Juliette Hurel

Joséphine Olech

Manon Gayet

Flute/Piccolo

Beatriz Da Silva Baião

Oboe

Karel Schoofs

Vacancy

Anja van der Maten

Oboe/Cor Anglais

Ron Tjhuis

Clarinet

Julien Hervé

Bruno Bonansea

Alberto Sánchez García

Clarinet/Bass Clarinet

Romke-Jan Wijmenga

Bassoon

Pieter Nuytten

Lola Descours

Marianne Prommel

Bassoon/Contra-bassoon

Hans Wisse

Horn

David Fernández Alonso

Felipe Santos Freitas

Wendy Leliveld

Richard Speetjens

Laurens Otto

Pierre Buizer

Trumpet

Alex Elia

Adrián Martínez Martínez

Simon Wierenga

Jos Verspagen

Trombone

Pierre Volders

Alexander Verbeek

Remko de Jager

Bass Trombone/Contra-Bass Trombone

Rommert Groenhof

Tuba

Hendrik-Jan Renes

Timpani/Percussion

Danny van de Wal

Ronald Ent

Martijn Boom

Harp

Albane Baron





ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使わせていただいております。

「人のいるところには夢がいる」2026年には創業50周年を迎えるジャパン・アーツの理念です。

どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、

人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホームページに

掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

今年も引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いします。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆

<年間サポート>

【個人サポーター】

朝妻 幸雄 M.I. 岩村 和央 上村 憲裕 Y.E. K.O. 大原 志津子 片山 由美子 K.K. 北村 眞 R.K.
新貝 康司 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly 苫米地 英人 K.N. 児子 弥生
S.N. 長谷川 智子 樋口 美枝子 平山 美由紀 藤野 盾臣 細沼 康子 松尾 芳樹 真野 美千代
安田 牧子 山川 和子 (匿名希望10名)

【法人サポーター】

三和プリンティング株式会社 株式会社育林堂 三井住友カード株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

<千住真理子に「花を贈ろう！」プロジェクト>

石坂 雅美 北村 眞 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 穴倉 剛 田中 治郎
H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子 (匿名希望7名)

<ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. Rimiko 中尾 圭吾 T.H. 樋口 美枝子 K.F. 細沼 康子
M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 ロロコミ (匿名希望9名)

<ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

江田 明子 T.O. K.K. Rimiko M.T. 平山 美由紀 細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子
ロロコミ (匿名希望8名)

2025年6月8日現在 敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)